

## ◇非戦平和と公開学習会開催

六月二十四日午後七時より「非戦・平和を学ぶ」公開学習会が開催された。この学習会は、親鸞聖人のみ教えを歪め、戦争に協力した真宗教団の過ちを私の問題として受け止め、二度と同じ誤りを起こさないためにさまざまな角度からその問題を見つめながら、非戦平和への願いを学び、誓うもので二〇一〇年より行われている。

今年度は「各国の平和・歴史教育に学ぶ」というテーマのもと、ドイツや中国・韓国の戦後の歴史教育の現状について学び、日本の戦後の歴史教育との相違や平和問題について全三回で行われ、一回目は、「日本の平和・歴史教育の現状と問題点」で、向田永朗さん（ヤスクニ問題専門委員）が発表された。

初めに小・中・高等学校で学ぶ日本の歴史教育について様々な教科書について、「中学校までは日本史を学習する機会はあるが、高等学校の社会科学からは、選択制になるので日本史を学ばない学生がいる」と指摘。

二〇〇六年、大学受験を優先した結果、世界史を履修させていなかった問題が発生。学校教育法の施行規則である学習指導要領違反となり卒業ができない高校生が八万人以上という事態に陥ったが、政治の介入により救済をされた。これをきっかけに日本の歴史や文化の重要性を訴える声が高まり、二〇一二年から東京

都では『江戸から東京へ』という日本史科目が必修化したと説明された。

そして『南京事件』について十一の教科書を調べ、多くは『南京事件』が記述されているが、中には記述がないものや事実でない事が書かれていたことから、学ぶ教科書によって印象が違ってくることを言われ、「歴史はその時代に失敗した出来事にふれ、未来をどう歩むか学ぶことであるはずなのに、間違った歴史を学んだ学生はどのような認識を持つのだろうか」と述べられた。

また様々な見解がある『南京事件』の犠牲者数について、ドイツのユダヤ人大量虐殺を例に挙げて、「ドイツとユダヤ人との間では犠牲者数（六百万人）について双方で合意ができていたが、日本と中国での『南京事件』の犠牲者数（数千人〜三十万人）の合意はできていない。犠牲者数の違いによって対立を煽るのではなく、民主的平和的な国際社会の一員として、互いの国で合意を得た歴史教育が大事でその合意を得ているドイツに学ぶべきことがたくさんある」と言われた。

休憩後意見交換が行われ、参加者からは発表の感想や家族の戦争体験が語られたり、これからの中国との関係についてできることは何か等様々な意見が出された。今回は七月二十二日（水）午後七時より開催される。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

―「教学研究室」の教育・研究方針とその願い―

高岡教区教学財団教学研究室（以下、「教学研究室」と略す）について、高岡教区内外の方々に、その存在と役割を知っていただき、より一層のご協賛をいただきたいとの願いをもって、以下の一文を草します。

曾て、高岡教区教学財団には、高岡仏教学院という教育施設がありました。それは京都の本願寺に行くことはできなくとも、地元高岡で真宗僧侶を育成でき、一般の人も仏教を学ぶことができる北陸三県では唯一の教育施設でした。しかし、交通網の発達とともに昭和三十年代にはその役割終わって、廃校となり、いつしか本体の教学財団もまた、存続議論の俎上に載るようになってきました。

そのような時期に当たり、教学財団設立ひいては高岡仏教学院（ちなみに現在残っている仏教学院は京都中央仏教学院、東京仏教学院、広島仏教学院、そして私学の行信教校のみです）運営に心血を注いだ高岡教区先人たちの熱情を思うとき、高岡仏教学院の再興は無理としても、教区独自の教育・研究施設はあってもいいのではないかと考える有志による呼びかけに応えて、一九八二年「教学開発室」（名称を「教学研究室」に変更したのは二〇一

四年）は設立されました。

さて、設立から現在に至るまでの間、「教学研究室」（「教学開発室」時代も含めて）研究活動の成果として挙げられるのは、「教学開発室紀要」「教学研究室紀要」の刊行です。「教学開発室紀要」では主に七高僧の著作研究に重きを置き、単なる学術研究ではなく七高僧が何を課題としてその著作を書き上げたのかを探ることによって、親鸞聖人が何を課題としていたのかを明確化することをねらいとしていました。また、「教学研究室」となつてからは親鸞聖人に関する最新の研究について学びを深め、より具体的な「人間・親鸞」としての生き方を明らかにすることに注力して参りました。また、教育機関としては、月一度の定例会での研究員による研究発表、研究室内だけにとどまることなく、最新の研究成果と課題の共有を目的に教区内外の人々をも対象とした公開講座の開催が挙げられます。

「教学研究室」創立以来、間断なく携わってきた者として、心がけてきた教育・研究方針は、いろいろありますが、その主たるものをいくつか挙げれば、先ず、「自ら学ぶ姿勢を養う」ということです。教育の本質とは、「今ここにあるもの」とは違うものに繋がることにあります。「内輪のパーティ」としての仏教学・真宗学に閉じこもることなく、「外部」である別の人間・別の社会・別の価値観に触れること。具体的には政治学・経済学・社会

学・歴史学・宗教学等の成果に触れ。自分には理解できない「高み」にいる先達たちに呼び寄せられて、その人がしている「言語ゲーム」に巻き込まれ出せば、放っておいても自ら学び出します。「学び」への切ない欲望は、自らの限界を超える予期せぬ「脱皮」をもたらします。

次に重きを置いたのは、研究員は「起居を無にする」ということです。「起居を無にする」とは必ずしも文字通りの意味ではなく、研究員それぞれの違う意味を尊重し、意見交換しあいながら、研究員のだれかにも属さない「鳥瞰的視座」が立ち現れるのを経験として共有すること。それはまた、自分を越えた視座から自分を見下ろし、自分自身の無知や無能を言い表す、それまでなかった言語を修得することでもあります。「学び」というのは、教室で授業を聴くだけのことはありません。どういう授業を・どんな仲間と・どんなふう聴くかということ、限られた時間をいかに愉快にかつ、有意義に過ごすことができるか、それを探り当てるのも、すでに重要な知的技術と思われれます。

このような教育・研究方針に対して、批判的な意見も幾つかありました。一つは、研究員は教区各組から一名ずつ出すというものです。しかし「外部」に触れる「学び」への欲望が駆動もしていない人を機械的に「教学研究室」に送り込んでも、みるべき効果はあがらないでしょう。

また、「教学研究室」はもつと「お金になる研究・事業」をすべきとの意見もありました。しかし、教育・研究の営みは、営利事業ではなく、もともと「利益があらがない」ものだと思つた方がよいし、「いろんな人からのご支援」を得て、かろうじて成り立つものだと考えた方がよいと思います。

ビジネスが利益を上げるために入力・出資をすれば、比較的短期間で結果が出るのに対し、教育・研究は惰性の強い制度であり、「キーを押してから文字が表示されるまで長い時間がかかる」システムであり、「差し出したものとは別のかたちのものが別の時間に、別のところに戻ってくる」システムです。教学財団の収支を黒字にするためには、どういう教育・研究をすればいいのか、などという発想は本来、教育・研究にはなじまないものです。

幕末期の日本を動かしたのは、官立の「昌平坂学問所」（「昌平黌」ともいう）とともに、私塾たる吉田松陰の「松下村塾」や緒方洪庵の「適塾」の門下生たちでした。今後「教学研究室」に期待をしています。そして、「いろんな人からのご支援」をよろしくお願いいたします。

【「教学研究室」室長 公文名 眞】

◇これからの日程（7/13～8/31）◇

7月	教区・財団行事	教化団体・組行事
13	臨時教区会	
14	常例法座（中止）	
20		同朋作業部会
22		非戦・平和学習会
28		全国総代会総会
29		中仏生のつどい
31		同朋養成研修会 仏婦・寺女合同執行部 会
8月		
4		仏婦第1回常任委員会
14	常例法座（中止）	
19		非戦・平和学習会
20		B 講員研修会（中止）
22		B 保育大学講座（中止）

2020年度「教区賦課金」納入について

5月当初、各ご寺院様宛に教区賦課金の告知書を送付させて頂きました。

納入期日は告知書に記載してありますように前期分が7月22日、後期分が12月22日迄となっておりますので早期の納入をお願い致します。尚、今年度の教区賦課金は2019年度の宗派賦課金の120%が依頼額となっております。

【西本願寺高岡会館

永代経法要中止のお知らせ】

新型コロナウイルスの拡大防止のため、7月19日（金）修行予定でありました永代経法要は中止といたします。

以上

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎7/25（土）：丘山 願海氏

（浄土真宗本願寺派 総合研究所 所長）

「今、わたしにできること(1)」

□7/26（日）：未 定

（富山教区）

◎8/1（土）：丘山 願海氏

（浄土真宗本願寺派 総合研究所 所長）

「今、わたしにできること(2)」

◎8/8（土）：山本 仏骨氏

（大阪教区中島東組定専坊 元住職）

「人生をたたえよう(1)」

□8/9（日）：未 定

（高岡教区）

◎8/15（土）：山本 仏骨氏

（大阪教区中島東組定専坊 元住職）

「人生をたたえよう(2)」

◎8/22（土）：山本 仏骨氏

（大阪教区中島東組定専坊 元住職）

「人生をたたえよう(3)」

【西本願寺高岡会館の常例法座】

新型コロナウイルスの拡大に伴いの下記の通り、常例法座を中止いたします。

記

7月14日（火）中止

8月14日（金）中止

9月14日（月）中止

以上